

版). 同 52 年 (1977) はメキシコ (ポポカテペドル山など) ・グランドキャニオンへ. 同 53 年 (1978) 南アメリカ南端のフェゴ島からパタゴニア・アコンカグア山・リマ・マチュピチュなど南米縦断を遂げ, イースター島へも. (この年 71 歳, 勲 3 等に叙せられた). 同 54 年 (1979) にはネパール (チベット国境まで) ・台湾へ. 同 55 年 (1980) にはインドネシア (バリ島・ジャワ島) ・アラスカ・アリュージョン (50 年ぶりのウナラスカ島) へ. 同 56 年 (1981) には台湾・ヨーロッパ各地へ. 同 57 年 (1982) にも台湾へ. (菌学会名誉会員になる. 各虫夏草の研究が完了). 同 58 年 (1983) 夏ヨーロッパ各地, 冬台湾蘭礁島へ. (「日本・中国菌類歴史と民俗学」, 「冬虫夏

草図譜」出版). 同 59 年 (1984) 冬台湾へ. (「続分裂子」, 「世界の顕微鏡の歴史」出版). 同 60 年 (1985) 上海・武漢・北京へ. 同 61 年 (1986) 台湾へ. 同 62 年 (1987) (「北極より南極まで——世界の山々と島々の紀行」を出版).

平成 5 年 (1993) 随筆「筆のすざび」これは生前書き遺された原稿を遺族の方が編集されたもの.

以上小林氏が 50 数年にわたって踏破し調査研究した地域は, 極地から熱帯まで 5 大陸すべてに及んでいる. 私は到底彼には適わない. 敬服するばかりである.

Dr. Yosio KOBAYASI, a member of the editorial board of the Journal, has passed away on January 6th, 1993 at the age of 87. (伊藤 洋)

## 新刊

□小田好道: 山県草木志 末田 尚 解題・翻刻. 安藤久次 植物解説. 広島市立中央図書館編集. A4 版. 299pp. 1992., 広島県山県郡の医者であり博物学者であった小野好道が, 安永 2 年 (1780) に執筆して広島藩に献上したもので, 市立中央図書館の浅野文庫に保管されている. それを翻刻し考定して出版したのが本書である. 原本の写真版とその翻刻が載せられ, そこに記されている 445 種の植物が解説されている. 好道は独学で医学を勉強したと言う. 当然草木学の知識が必要となるが, 本草綱目啓蒙, 大和本草などをもとにして, 山県地方の植物を調べたのである. 薬用や食用などに関係するものが殆どであるが, 実際に自分で見聞し, また地元の人に聞いた事実を記しているのが特色である. また参考した本の誤りも指摘している. それがたくまずして地方の植物誌を作ることになっている. 江戸時代には各地にこのような研究者がいたのであろうと推測される. 埋もれていたその一端を明らかにしてくれたことは, 博物学の歴史の上でも貴重なものと思う. 地方の熱心な研究家が実地の検証から学問に寄与してくれていることは, 現在でも同じであるが, 江戸時代での事例を示してくれた. 本書の出版, 解説された, 故末田氏, 安藤氏, 広島市立図書館の方々の努力を多とする次第である. (山崎 敬)

□Lone F.A., Khan M. and Buth G.M.: *Palaeoethnobotany. Plants and Ancient Man in Kashmir*. 1993. 278 pp. A. A. Balkema, Rotterdam. ¥10,450.

カシミールの古代遺跡のうち, Burzahom と Semthan から得られた植物遺体の同定と, それらによる古植物環境の推論である. 年代は Burzahom では 2375 BC から 200 AD, Semthan では 1500 BC から 1000 AD にわたる. 2/3 以上のページを費やして, 同定形質の説明と得られた植物のリストおよびそれぞれについてのコメントが述べられている. 植物遺体は種子と材 (炭化物を含む) で, 主として形態と計測数値により特徴区分がされている. SEM 写真も多数示されているが, 紙質が合わないため不鮮明なのが惜しい. 古代のカシミールで利用されていた植物は, 木材や飼料植物のほか *Juglans regia* などは現地産であるが, 多くの有用植物は三つのルートもたらされたとしている. 西アジアのハラッパ文明からはオオムギ, コムギ, エンドウ, レンズマメ; 中央アジアからはアメンドウ, モモ, セイヨウアンズ, スズカケノキ, カラグワそれにおそらくキビ, ブドウが導入され; パンジャブや西北ヒマラヤはコメ, ツゲ, イチジク類がもたらされたとする. 種類の同定のみでなくその産出量から, それぞれの時代の農業形態の推定も行われている. その裏付けとして,